

命ある芸術「盆栽(BONSAI)」を学ぶ ～人も盆栽も枯れるから面白い～

2026 年 8 月 21 日(金)

JGA 第一支部研修終了報告



8 月 21 日(金)、江戸川区の春花園 BONSAI 美術館において、JGA 第一支部盆栽研修を実施しました。参加者は 19 名 (JGA 会員 18 名+委員 1 名)、東京、神奈川、千葉、埼玉から集いました。今回は全員が午前の入門編と午後の応用編の両方に申し込み、9:30～16:30 過ぎまで、1 日を通して盆栽の基本的な知識から造り方、味わい方まで、じっくりと学びました。講師は春花園 BONSAI 美術館館長の神康文(じん やすふみ)氏。

まず屋外展示場で名品を鑑賞。何と 5 億円の黒松を例に取り、「正面はどこか」を全員で推測し、何故そこなのか、よい盆栽や鑑賞のポイント、見どころを確認しました。樹種や樹形などの外的な要素に加え、理論では説明できない美意識や精神性が入ってくるところに日本らしさを感じ、それが海外の方を惹きつける魅力かと思われました。春花園の来訪者の多くは来日客とのこと。実は国内の盆栽人気は低迷、愛好者も減少傾向にあり、むしろ海外で人気が高いのだそう。高額な盆栽を買うのもほぼ外国人で、名品を国内に留める努力をしないと、かつての日本美術の海外流出の轍を踏みかねない。危機感を覚えます。せめてガイドとして、盆栽の鑑賞のポイントをしっかりと押えて、適切に説明できるようになりたいものです。

園内には約 3000 鉢の盆栽以外にも見事な鯉が泳ぐ池や太鼓橋、影向堂など、見どころがあります。さらに美術館内の和室には異なる構えの床の間があり、それぞれ趣の異なる床の間飾りが鑑賞できます。盆栽、掛け軸、水石や添え物などを用い、季節や折々の場に応じた景色をいかに創造するか。さらにその風情を味わい、物語を紡ぐには、理論だけではなく、日本ならではの感性や和歌の知識も求められます。正解はありませんが、ガイドとして、来館したお客様に、ぜひその奥深さや楽しみ方をお伝えしたいところです。



また、真柏を使い、盆栽作りも体験しました。枝に針金をかけ、その樹の形、つまり個性から、正面を決めて、将来の姿を想像しながら形を整える。盆栽を育てていく上で必要な作業や注意点も学びました。



今回幸運だったのは、園主の小林國雄氏のお話をじっくり聞いたことです。日本を代表する盆栽作家、春花園の親方として、海外からの多くの弟子を育成し、盆栽という文化とその技術や哲学を世界に広め、同時にいかに国内で継承していくか、長く尽力されてきた氏の含蓄に富むお話に、参加者全員が引き込まれました。充実した学びの 1 日でした。(第一支部研修担当)